

介護ウェブ 2022 推進ニュース

★ 新介護署名キックオフ集会を開催（2022年9月1日）

9月1日（木）に中央社保協主催の新介護署名キックオフ集会がオンラインで開催されました。介護保険制度の改善を求め、新署名をすすめることをテーマに開催し、全国から300名以上が参加しました。

集会に先駆けて、全日本民医連 林泰則事務局次長より、新介護署名の4つの請願項目の趣旨について、政府の進める介護保険制度の問題点も踏まえて報告を受けました。

現場からの発言では、愛知県医労連の杉江氏より、「夜間は患者が寝ているから、夜勤は楽だと言われるが、トイレ介助やセンサー、コール対応など重なるとシャトルランのような状態になる。自分は処遇改善で給与上がったが、同一施設内でも医療保険事業をしている部署の介護士の給与は上がらなかった。また、自事業所では

クラスターが発生し、現場の職員は身体も心もボロボロになりながらも対応したが、危険手当もない。現場で大変な思いをして働く職員の処遇が少しでも改善するように引き続き声をあげたい」と報告がありました。

利用者からの発言では、新日本婦人の会・泉川氏より、「介護保険制度が介護職と利用者のためにある制度ではないということをいやというほど思い知った。現在夫は要介護2で、改悪により介護保険から事業から総合事業に移行されないか心配している」、同じく同会の日野氏からは、「認知症の母をショートステイと週末在宅介護で看ているが、母は利用料2割のため、食費など含めると月に16万円以上も介護にかかり、年金はほとんど残らない。利用料2割の対象者が拡大するとどうなってしまうのか心配である」と発言がありました。

また介護7団体からの連帯挨拶として、NPO法人暮らしネット・えんの小島氏が、「利用者負担が2割になれば、利用回数などを減らすということも当然起こり、事業者にとっても、大きなダメージとなる。包括報酬の

<4つの請願項目>

- ① 負担増・サービス削減の見直し中止
- ② 処遇改善・職員体制の強化
- ③ コロナ対策強化
- ④ 介護保険の抜本的見直し、国庫負担の引き上げ

SNSでも大宣伝
オンライン署名も拡散Twitterデモ&
スタンディングデモ9月14日(水)12時スタート
JR巣鴨駅前#75歳医療費負担2倍化やめて
#介護利用料の原則2割化反対

介護サービスでは、利用料が2倍となり、サービスが使えないという事態も起こってくる。介護が危機的状態にあることをより多くの人に伝え、この史上最悪とも言える改悪を跳ね返さなければいけない」と述べました。

最後に中央社保協 林信悟事務局長が、この秋の介護のたたかいとして、①請願行動をこの秋に全集中する、②全国で大規模宣伝に打って出る、③厚労省（審議会）を包囲する、④介護改善運動の共同を広げるの4つの柱を提起。②の大規模宣伝では、オンライン署名やTwitterデモなど新しい取り組みを提起しました。

★ 当日資料：全資料は下記のホームページに掲載

中央社保協：[新介護署名キックオフ集会【9/1開催】 - 中央社保協 \(shahokyo.jp\)](https://shahokyo.jp)

（林次長の報告資料は、全日本民医連「介護ウェブ」のページにもアップ）。

■ 「介護ウェーブ2022」チラシを作成

全日本民医連では、①介護ウェブの学習・宣伝資材として活用する、②全ての職員に配布して頂き、介護ウェブの取り組みを法人全体として共有する一ことを目的に、「介護ウェブ2022」チラシを作成しました。9月6日以降に各県連に順次届くよう手配しています。是非積極的にご活用ください。

介護は生きる力、 生きる喜びをともに支える

～笑顔に出会う、心がつながる～

コロナ禍は、介護という仕事が、
社会にとってなくてはならないものだということを、
あらためて、明らかにした。

その人らしい生活を
継続できるよう向き合っていくことが
私たち介護職が大切にしていること。
利用者・家族の生活を支える
素晴らしい仕事だという自信、
自負が私たちにはある。

一人一人に寄り添ってくれる、
あなたの存在が元気の源。
コロナ禍で、もしあなたたちがいなくなったら
私や家族はどうなっていたのだろうか。
あなたの思いやりのある心づかいが、
その明るい笑顔が私の大きな力になる。

全日本民医連
(全日本民営医療機関連合会)

お問い合わせ先 介護ウェア推進本部

TEL:03-5842-6451

E-mail: min-kaigo@min-iren.gr.jp

全日本民医連事務局：高梨・瀧澤